

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門美術高等学校

- 1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
- 2 将来、美術・工芸・デザインの第一線で活躍し、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルの育成
- 3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展に寄与する

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成

(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成に取り組む。

ア 生徒全員がタブレット端末(2、3年生はBYOD)を活用し、ポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。令和2年度、学校経営推進費支援校となり、事業計画名「美術教育最先端“港南造形のICT飛躍的改造”計画“Konan drastic innovation”」により設置した全HR教室のプロジェクタ(経営推進費用250万円)と連動させることで、「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」を、各授業実践を通じて向上させる。「学習動画」やオンライン授業、教育アプリ等を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、すべての教科で学力向上を図る。

イ 造形教育における幅広い知識・実技力を身に付けさせる指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の充実を図る。

ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通じて、知識を表現し、活用していく力を身に付けさせる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。

エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員の指導力向上のため校内研修、海外研修を充実する。

※学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答(H30 84%、R1 80%、R2 84%)を、令和5年度には90%に近づける。

※「発信力」の育成について、全教室設置のプロジェクタを活用して、卒業時には、すべての領域の生徒がタブレット端末等のICT機器を活用して、

プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。すべての授業(教科・科目)でICT活用を促進していく。学校教育自己診断

において「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定的回答(H30 86%、R1 88%、R2 83%)を、令和5年度には90%にする。

2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人の育成

(1) 将来、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。

ア 高大連携、作家、企業、芸術団体との連携等の一層の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。

イ 1年次から進路ガイダンスを系統的に実施し、将来を見据えた具体的な進路目標の実現に至る道筋を明確にし、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。

ウ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学10名程度を含む4年生大学進学者数100名程度を維持していく。

※進路指導の指標として、学校教育自己診断において「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答(H30 91%、R1 94%、R2 91%)「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答(H30 92%、R1 93%、R2 91%)、いずれも90%以上を維持していく。

※造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また「高校展」「芸文祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持していく。令和5年度においても現在の水準(美術の大阪府代表)を維持していく。学校教育自己診断において「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答(H30 87%、R1 87%、R2 89%)を、令和5年度には90%以上にする。

※部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。

3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割

(1) 府立学校唯一の専門美術高校、日本一の専門美術高校として、全国の美術・工芸教育のセンター校としての役割を果たしていく

ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。

イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、教育活動の拡充を図る。

ウ 日本一の専門美術高校にふさわしい教育活動を展開するため、展示・展覧を進め、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図るとともに、国際理解教育の推進を図り、姉妹校である臺中第一高級中等学校との連携を基本に、外国の学校との交流を推進する。

※校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。また、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を推進する。令和5年度においても海外、国内の作品に触れる機会を、海外研修(イタリア・台湾)も含め5回以上実施し、学校教育自己診断において「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答(H30 98%、R1 98%、R2 99%)を、令和5年度には100%にする。また、「国際感覚を養う国際交流の機会がある。」の肯定的回答(H30 78%、R1 70%、R2 57%)を、令和5年度には80%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>コロナ禍での高校生活が2年間続き、本調査結果にも随分影響している。</p> <p>まず、前年比で大きく向上した(7%以上)項目は、5つ。その中で「7授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」については、造</p>	<p>第1回(6月23日)オンライン開催</p> <p>・校長より挨拶冒頭で、「本校の使命」「ICT教育推進の継承」「次年度『めざす学校像』の変更(第一線・プロフェッショナルの育成→社会の各分野で活躍できる人間の育成)」について話をした。また、現在の美術・工芸教育の課題について述べ、本校ができることとして、小中学校と連携し、指導者育成にあたる機会を設けたいと述べた。</p>

府立港南造形高等学校

形科目はもとより普通科目においても発表機会を増やしていることが考えられる。生徒のプレゼンテーション力育成に効果があったと思われる。「13 部活動や生徒会活動が盛んである。」については、作品発表の機会が奪われた昨年度に比べ、今年度は制作期間が短縮されたものの発表機会は保障されたので、生徒たちが意欲的に活動した成果が出たと考えられる。

「18 学校の施設や設備については満足している。」は、改修によりたいへん気持ちよく使用できているトイレのことや、HR教室に短焦点プロジェクタが設置されたこと、コロナの影響により空気清浄機や体温測定装置などが導入されたことで満足度が高まったと推測される。

一方で、大きく低下した(5%以上)項目は、「17 学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」「20 国際感覚を養う国際交流の機会がある。」の2項目であった。

今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、6月実施予定だった避難訓練が9月に延期され、9月に「大阪880万人訓練」とともに予定していた避難訓練も放送による実施となった。そういった背景があり「17」については、2年連続で低下している。また、「20」についても、海外との交流ができなかったため、大きく低下している。

- ・委員からは、「頂点をめざすばかりが学校の目標ではない。」と賛同をいただく意見があった。
- ・「ICTを活用した表現力の向上」について、令和5年度までの目標について聞かれた。その回答として「順調に学校教育自己診断の肯定的回答は伸びている。90%に向けて努力する。」と答えた。
- ・生徒支援部の盗難防止の校内放送について、「良い取組み。環境をどう整えていくかを意識することが大切。」との意見をいただいた。
- ・「コロナ禍で生徒の心のケアが大変だと思う。学校行事も開催が難しいと思われるが、延期や規模縮小などしてもなんとか実施することが、生徒の気持ちをつなぎ留めるところだと思う。頑張ってもらいたい。」という意見をいただいた。

第2回(12月1日)集合開催

- ・学校行事の開催状況等2学期の教育活動を報告。また、授業や部活動など、学校生活の紹介を冒頭に行った。さらに、来年度の教育課程の変更や学校運営の変更点(分掌の再編、生徒手帳の復活等)についてお話しした。新しい取組みとして「黒板アート」に挑戦したことや社会で活躍している卒業生の話も興味深く聴いていただいた。
- ・「新型コロナの影響で延期されていたイベントが10月、11月に集中し、さらに3年生は進路に関わる大切な時期で、先生方は本当に大変だったと思う。ICTが主流の中、一方で手書きができる生徒手帳が復活するのはよいことだ。」という意見を頂戴した。
- ・進路指導部からの報告に対し「指定校推薦での進学希望者増加は他校でも同様で、大学では指定校推薦の進学希望者が殺到している。保護者向けの進路説明会をオンラインで開催するのは良い取組みだ。」との意見を伺った。
- ・「コロナ禍で行事が中止となり、学校での生活リズムが確立できないこともあるのではないかと。シーンが変わると気分が変わる。ずっと日常が続くことで、生徒の気持ちの切り替えが難しくなり、ストレスになっているのではないかと心配だ。」という意見や「コロナ禍でマスク生活が長くなり、様々なことが制約される中、ストレスを抱えた生徒もいると思う。このような生徒がいる場合、なにか対応はしているか。」という質問があった。それに対し、「実際にストレスを抱えている生徒が増えている。定期的に教員間で生徒情報を共有し、年10回スクールカウンセラーを迎え、生徒の相談に乗ってもらっている。」と回答。
- ・「マスクをしていると友人の顔も分からず、先生の顔も覚えられない。オンラインなどを活用してマスクを外したコミュニケーションができればよいと思う。」という顔の見えない社会全体の不安感を訴える意見も聞かれた。
- ・「学校説明会や卒業制作展での受験相談コーナーなど、中学生へのサポートについて、今後も『面倒見の良い学校』であってほしい。」
- ・「新型コロナの影響で様々な仕事がなくなっている。従来の仕事がなくなってしまう中、卒業生から新しい仕事について授業等で紹介する機会があるのはよいことだ。芸大・美大への進学者が多いが、他にも様々な選択肢があることも指導してほしい。」とキャリア教育についてのご意見も伺った。
- ・まとめとして、校長より「新型コロナの影響は授業にも出ており、毎年描いている自画像(油絵)がマスク着用のため描けなくなっている。ICT機器の活用は進めながらも、人と人とのふれあいの中で培われる力もある。オンラインと対面を使い分けながら進めていきたい。」と締めくくる。

第3回(3月2日)開催

- ・学校教育自己診断の結果は、多くの項目で前年度よりも評価が向上している。生徒たちは2年以上、新型コロナの影響で不自由なこともあったと思うが、この経験を糧にしてほしい。卒業制作展はすばらしいものであった。
- ・本年度は志願者も多かったようで、生徒の作品や活動など、学校が様々な情報を発信していることが、中学生や保護者に伝わっているのではないかと感じる。
- ・今後も港南造形の様々な造形分野が学べるという特色を生かせるよう、専門教員の確保をお願いしたい。
- ・コロナ禍の中、学校教育自己診断の結果も良好で先生方の尽力が大きかったと思う。今後は専門教員の確保は大変だが、計画的に進めてほしい。
- ・コロナ禍で学校行事の進行の難しさ、教職員・生徒の健康観察、感染症対策など、大変だったと思う。卒業制作展では生徒のいきいきとした姿が見られた。「この学校を卒業してよかった」と誇りを持ってもらえているのではないかと。学校教育自己診断の良好な結果は、生徒・保護者から教職員への信頼の表れだと思う。
- ・コロナ禍で昨年度は実施できなかった行事を今年度は工夫しながら実行されていたと思う。美術を学ぶ生徒にとって、生徒のテレビ出演や、卒業制作展など、自分の作品が多くの人に見てもらえる機会は大切であり、実現できたことは良いことだ。
- ・生徒たちが広く自分の作品を発表する場、機会が減ってきている。費用面など、容易に借りられる会場も減少しているが、今後も発表の場の確保が課題になるだろう。海外研修旅行はコロナ禍が落ち着けば、ぜひ復活してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 2年度値]	自己評価
1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成	(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 ア 生徒全員がタブレット端末を活用し、全ての教科で、学力の向上 イ 実技力の向上と、少人数や選択授業による実技力及び学力の向上 ウ 言語活動の充実 エ 美術文化への理解	(1) ア 造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であり、家庭学習の強化も必要。全ての教科でタブレット端末を活用した授業を展開して授業への興味・関心を高めるとともに、自学自習のために学習アプリ等も活用して、学力の向上を図る。 イ 造形活動に必要な「幅広い実技力」を身に付けさせるため、実技指導の充実を図るとともに、少人数や選択授業により授業への関心を高め、実技力及び学力の向上を図る。 ウ 全ての教科で、発表の機会を増やし言語活動を充実させる。生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を増やす。 エ 国立国際美術館等の協力を得て、現代の作品、世界の作品、伝統工芸に触れる機会を増やし、美術・文化への理解を深める。	(1) ア・学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答を、85%以上にする。[84%] イ・学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答、90%以上を維持する。[91%] ウ・学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定的回答を85%以上にする。[83%] エ・海外、国内の作品に触れる機会を増やす。[6回]	(1) ア・新型コロナウイルス感染症の影響が今年も大きかった。1学期からのべ10日間の休校(休日含まず)で授業ができなくなった。それに伴ってオンライン配信課題を準備するようになり、1人1台端末の活用がスムーズに導入できた。また、各HR教室への短焦点プロジェクタ導入により、視覚教材を利用する教員が増え、少しずつICTの活用が進んでいる。学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答は90%に向上した。(◎) イ・授業その他で様々なコンクール、公募展等を紹介し、応募を促している。そのことにより多様な経験、ニーズに応じた表現体験を積んで生徒たちが成長している。学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」は、92%で、微増であった。(◎) ウ・1・2年生は造形各授業の合評会で、3学年は「課題研究」で、自己の作品に対してプレゼンを行い、言語活動を充実させる取組みを実施している。しかし、普通教科においては、グループ協議や発表の活動を控えているため、学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」は、90%に向上した。(◎) エ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、7月までは機会が取れなかったが、7月以降1年生は「大塚国際美術館」で芸術鑑賞、2年生「美学美術史演習」選択生は授業で美術館鑑賞(6回)、3月に予定されている修学旅行での「21世紀美術館」等、3年生は「造形演習」選択生が美術館鑑賞(2回)、昨年より多くの機会(10回)を得ることで、美術・文化への理解を深めた。また、部活動参加者は、高校展や芸文祭等の出品展覧会を鑑賞していることから、より多くの機会をつくっている。(◎)
2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人の育成	(1) 芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェSSIONナルを育成 ア 高大連携等の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進 イ 生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導と教育相談の充実 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にし	(1) ア 高大連携等の充実、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。新型コロナウイルス感染症の影響により停滞している連携を、特に防災面での連携をさらに進め、防災学習に生かしていく。 イ 生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を組織的に行う。進路実現に向けた進路指導体制をさらに強化する。生徒に寄り添う教育相談体制のさらなる充実を図り、担任以外に相談できる機会を増やす。 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。進路指導の成果を多角的に把握し、生徒が希望する進路実現につなげる。「高校展」や「芸文祭」等の高校生対象の公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。	(1) ア・高大連携と大阪市住之江区との連携を継続していく。「大和川陶板ロード」も延伸していく。学校教育自己診断における「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答を、80%に近づける。[66%] 「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」の肯定的回答を、80%以上にする。[79%] イ・学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯	(1) ア・住之江区とは、継続的に実施している「大和川陶板ロード」の制作活動及び大阪市中央図書館と住之江図書館とのコラボ企画を行った。新たに地域のまちづくりとして「落書き抑止ウォールアート」への協力依頼もあった。 ・学校周辺の清掃を生徒会の呼びかけで月一回定期的に実施し、きれいなまちづくりを行動で示している。学校教育自己診断における「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」は、昨年と同様66%に止まった。(△) ・コロナ感染拡大防止のために参集での避難訓練ができなかったため、「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」は、72%に止まった。(○) イ・新型コロナウイルス感染症の影響で6月に予定していた「全国美術系大学・短大合同説明会」は中止になったが、関西地区の美大・短大のみに限定し11月に合同説明会を開催し、好評であった。学校教育自己診断における「進路実現に向け

府立港南造形高等学校

	<p>た講習を計画的・組織的に実施 「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持</p>	<p>部活動指導や補習による、生徒・教員の過度の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。</p>	<p>定的回答、90%以上を維持する。[91%] ・学校教育自己診断における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」の肯定的回答を80%に近づける。[73%] ウ・学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答を、90%以上にする。[89%] ・「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に達成する。</p>	<p>て、進学や就職など適切な指導が行われている。」は92%で、目標の90%以上を維持した。(○) ・カウンセリングルームの設置により、「立ち寄りやすい部屋」ができ、相談しやすい環境づくりを整備した。学校教育自己診断における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」は、コロナ禍においても対面でのカウンセリングを行い、何とか73%と現状を維持している。(△) ウ・新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されたが、予定していた展覧会は開催され、それぞれで高い評価を受けた。「芸文祭」では1・2年生388名のうち304名が出品し、166名が入選した。(入選率54.6%)また、2年女子が「芸文大賞」を受賞した。学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」は、91%に向上した。(○) ・「定時退庁日」、「ノークラブディ」を徹底し、さらに、生徒・教員とも、展覧会前以外は、コロナの影響もありほぼ17時半には、退校している。(○)</p>
<p>3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割</p>	<p>(1) 府立学校唯一の専門美術高校、日本一の専門美術高校として果たす役割 ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等の推進 ウ 日本一の専門美術高校にふさわしい教育活動と外国の学校との交流の推進</p>	<p>(1) ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、美術・工芸の教育活動や美術大学との連携にセンター校としての役割を果たしていく。教育活動・発表・展覧会を充実させ、近畿・全国に向けて発信する。 「大阪府高等学校美術・工芸教育研究会会長校」として、大阪府全体の「高校展」「芸文祭」で中心的役割を果たすとともに、「港南展」をはじめとした独自行事、取組のより一層の発展を図る。 イ 本校の特色である地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さ、達成感を与えるとともに、生命を大切に心、社会のルールを守る態度を養う。 ウ 日本一の専門美術高校にふさわしい教育活動を展開するため、展示・展覧、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図るとともに、国際理解教育の一環として、姉妹校である臺中第一高級中等学校との連携を基本に外国の学校との交流を推進する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答、99%を維持していく。[99%] イ・学校教育自己診断における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答を、90%に近づける。[87%] 「地域（住之江区）や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答を、80%に近づける。[66%]【再掲】 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答を、80%以上にする。[79%] ウ・学校教育自己診断における「国際感覚を養う国際交流の機会がある。」の肯定的回答を、70%以上にする。[57%]</p>	<p>(1) ア・全国大会（佐賀大会）は、リモートで開催となった。事務局長を佐賀に派遣するなど「全国専門美術高校協議会本部事務局」としての役割を果たした。 ・「芸文祭」では搬入出・審査拠点として本校施設を提供し本校教職員が中心的役割を果たした。 ・「港南展」（卒業制作展）は入場者数を制限しながら盛会に開催した。学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」は、99%で維持できている。(◎) イ・住之江区では「大和川陶板ロード」の制作活動及び住之江図書館とのコラボ企画を行った。 ・校内では、学校周辺の清掃活動や学校説明会でのボランティア活動を通して、社会貢献の大切さ、達成感を実感させている。学校教育自己診断における「部活動や生徒会活動が盛んである。」は、生徒・保護者とも94%に上昇した。また、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」は、93%で非常に上昇している。(○) ウ・大学主催のコンクールでは、大阪成蹊大学「デザインコンペティション」では「準大賞」「学校賞」「金賞」等を、大阪芸術大学「ダ・ヴィンチコンテスト」では「銀賞」「最優秀賞」等、奈良芸短「デッサンコンクール」では「優秀賞」を受賞し、多数の入賞・入選となった。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ICT関連の整備が順調に進んだ。学校教育自己診断における「学校の施設や設備については満足している。」は、89%に上昇した。 ・国際交流は、新型コロナウイルス感染症の影響により、新しい動きの無いままであった。何らかの形で国際交流を再開できるよう次年度検討したい。学校教育自己診断における「国際感覚を養う国際交流の機会がある。」は、コロナ禍であっても44%を保っている。(◎)</p>